

平成 28 年度 経営発達支援計画

経済動向調査レポート

【概要版】

(平成 28 年 2 月～4 月)

平成 28 年 5 月～6 月実施

I. 現在の景気動向についての傾向

<総括>

- ・全国的な小規模企業における景気動向は改善に足踏み。
- ・新潟県内においても業種によっては景気の改善傾向が見られるものの、依然停滞傾向。
- ・新発田市の人口は減少傾向にあり、紫雲寺地域も人口減少が続く。
- ・新発田市内の企業の景気動向（平成 27 年 7～9 月期）としては、サービス業で回復の兆しが見えず依然苦しい状況が続く。

1. 全国的な経済動向について

■小規模企業の景気動向（平成 28 年 3 月、4 月）

「3 月、4 月も景気動向改善に足踏み、変わらず停滞」

平成 28 年度 3～4 月の景気動向としては、「売上高」「採算」「資金繰り」「業況」について前月と変わらず「悪化した」「減少した」と回答する企業が多くなっている。

業種別では、小売業の悪化が目立ち、建設業で改善の傾向が目立っている。

<小規模企業における景気動向（全国） 単位：ポイント（DI 値*）>

業種	産業全体			製造業			建設業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
売上額	▲ 19.8	▲ 19.5	0.3	▲ 14.1	▲ 14.8	▲ 0.7	▲ 18.1	▲ 13.2	4.9
採算	▲ 21.5	▲ 20.9	0.6	▲ 18.3	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 25.3	▲ 17.9	7.4
資金繰り	▲ 17.8	▲ 16.3	1.5	▲ 15.0	▲ 17.5	▲ 2.5	▲ 20.9	▲ 13.1	7.8
業況	▲ 22.9	▲ 23.4	▲ 0.5	▲ 20.8	▲ 19.9	0.9	▲ 21.4	▲ 19.8	1.6

業種	小売業			サービス業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
売上額	▲ 28.2	▲ 31.2	▲ 3.0	▲ 18.8	▲ 19.1	▲ 0.3
採算	▲ 26.8	▲ 29.4	▲ 2.6	▲ 15.5	▲ 14.0	1.5
資金繰り	▲ 21.1	▲ 21.6	▲ 0.5	▲ 13.9	▲ 13.0	0.9
業況	▲ 29.9	▲ 35.0	▲ 5.1	▲ 19.5	▲ 18.8	0.7

注) DI（景気動向指数）は各調査項目について、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。

全国商工会連合会 企業環境整備課

（参照元：全国商工会連合会小規模企業景気動向調査）

*DI 値…Diffusion Index の略で、「増加」「好転」したとする企業割合から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値のこと。企業の景況感を示す業況判断指数として用いられ、プラスに転じるほど「景況感が良い」と捉えることができる。

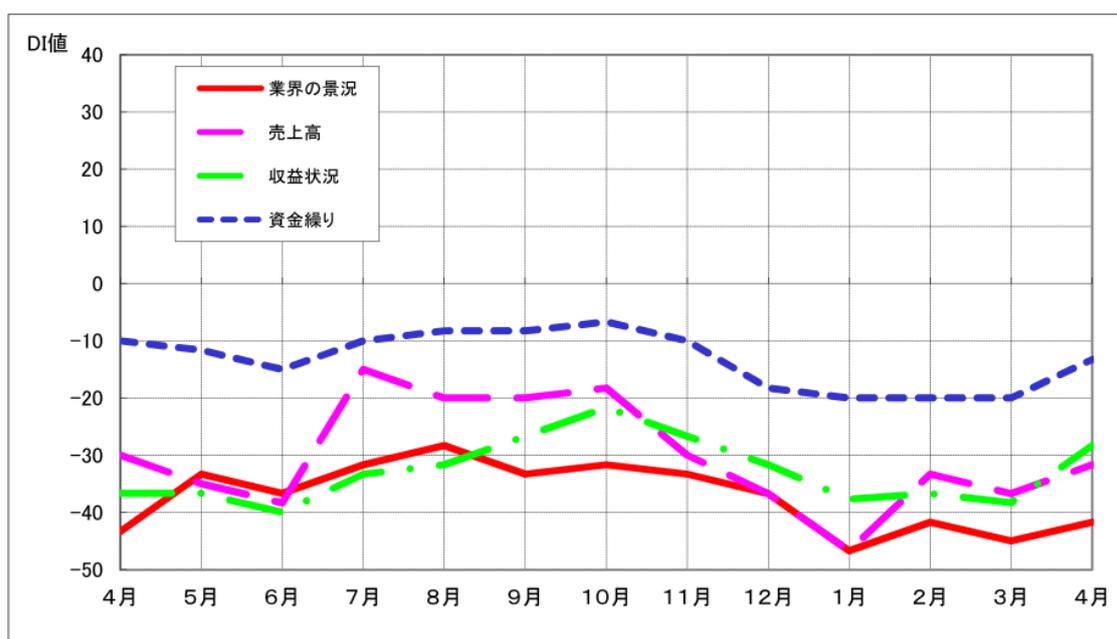
2. 新潟県内の経済動向について

■新潟県内企業における景況感（平成 27 年 5 月～平成 28 年 5 月）

「若干の改善傾向が見られるものの、停滞が続く」

新潟県内企業における景況感としては、平成 28 年 4 月期では「業界の景況」「売上高」「収益状況」「資金繰り」とすべての項目で若干の改善が見られた。平成 28 年 1 月期から 4 月期までの推移を比べても、上記同様全項目で改善傾向が見て取れる。

<新潟県内企業における景気動向（全国） 単位：ポイント（DI 値*）>



	H27				H28									
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
業界の景況	-43.3	-33.3	-36.7	-31.7	-28.3	-33.3	-31.7	-33.3	-36.7	-46.7	-41.7	-45.0	-41.7	
売上高	-30.0	-35.0	-38.3	-15.0	-20.0	-20.0	-18.3	-30.0	-36.7	-46.7	-33.3	-36.7	-31.7	
収益状況	-36.7	-36.7	-40.0	-33.3	-31.7	-26.7	-21.7	-26.7	-31.7	-37.7	-36.7	-38.3	-28.3	
資金繰り	-10.0	-11.7	-15.0	-10.0	-8.3	-8.3	-6.7	-10.0	-18.3	-20.0	-20.0	-20.0	-13.3	

（参照元：新潟県中小企業団体中央会）

3. 新発田市の経済環境について

<新発田市人口推移（平成 28 年 1 月末、平成 28 年 4 月末）>

	世帯数	男	女	合計	増減数
平成 28 年 1 月末	35,812	48,426	51,767	100,193	-
平成 28 年 4 月末	35,978	48,359	51,524	99,883	-310

(参照元：新発田市)

<紫雲寺地区人口推移>

町丁目字名	平成 28 年	平成 28 年	増減	平成 28 年	平成 28 年	増減
	1 月末	4 月末		1 月末	4 月末	
	世帯数	世帯数		人口合計	人口合計	
紫雲寺地区計	2,202	2,204	2	7,338	7,302	△ 36

(参照元：新発田市)

新潟県の人口推移と同様に、新発田市においても人口減少が続いている。平成 28 年 4 月末現在の新発田市人口は、9 万 9,883 人となり 10 万人を割った。平成 28 年 1 月末と比べ 310 人の減少となっている。紫雲寺地区の人口推移としては、平成 28 年 1 月～4 月末までで世帯数では増加しているものの、人口としては 36 人の減少となっている。

4. 新発田市における企業の景況感

＜新発田市の企業における業種別景気動向 単位：ポイント（DI値*）＞

来期の見通し(H27年10月～12月)

製造業	前年同期比(H26年7月～9月)					前期比(H27年4月～6月)					前年同期(H26年10月～12月)と比べ				
	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化
売上額	増加	25.0%	減少	50.0%	25.0%	増加	25.0%	減少	62.5%	12.5%	増加	25.0%	減少	50.0%	25.0%
資金繰り	好転	0.0%	悪化	87.5%	12.5%	好転	0.0%	悪化	75.0%	25.0%	好転	0.0%	悪化	75.0%	25.0%
採算(経常利益)	好転	12.5%	悪化	62.5%	25.0%	好転	-	悪化	-	-	好転	12.5%	悪化	62.5%	25.0%
従業員(含臨時・パート)	増加	12.5%	減少	75.0%	12.5%	増加	-	減少	-	-	増加	12.5%	減少	87.5%	0.0%
業況(自社)	好転	25.0%	悪化	62.5%	12.5%	好転	12.5%	悪化	87.5%	0.0%	好転	12.5%	悪化	75.0%	12.5%

※売上は前年同期比で増加企業が減少したが、微増ではあるが業況は好転。来期に向けて売上・業況ともに不変へ見る企業が多く大きく変化なしと見ている。

今期直面している経営上の課題→①従業員の確保難 ②原材料費・人件費以外の経費の増加

来期の見通し(H27年10月～12月)

建設業	前年同期比(H26年7月～9月)					前期比(H27年4月～6月)					前年同期(H26年10月～12月)と比べ				
	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化
完成工事高	増加	40.0%	減少	40.0%	20.0%	増加	40.0%	減少	60.0%	0.0%	増加	20.0%	減少	40.0%	40.0%
資金繰り	好転	40.0%	悪化	60.0%	0.0%	好転	60.0%	悪化	40.0%	0.0%	好転	40.0%	悪化	40.0%	20.0%
採算(経常利益)	好転	20.0%	悪化	80.0%	0.0%	好転	-	悪化	-	-	好転	0.0%	悪化	100.0%	0.0%
従業員(含臨時・パート)	増加	20.0%	減少	80.0%	0.0%	増加	-	減少	-	-	増加	0.0%	減少	100.0%	0.0%
業況(自社)	好転	0.0%	悪化	80.0%	20.0%	好転	40.0%	悪化	60.0%	0.0%	好転	20.0%	悪化	60.0%	20.0%

※売上は前年同期比で4割の企業が増加したが、業況は横ばい状態。来期に向けて売上は増加と見る企業が減少し一部の企業が減少へと転じると見ている。

今期直面している経営上の課題→①請負単価の低下・上昇難 ②民間需要の停滞

来期の見通し(H27年10月～12月)

卸売り業	前年同期比(H26年7月～9月)					前期比(H27年4月～6月)					前年同期(H26年10月～12月)と比べ				
	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化
売上額	増加	25.0%	減少	50.0%	25.0%	増加	0.0%	減少	25.0%	75.0%	増加	50.0%	減少	50.0%	0.0%
資金繰り	好転	0.0%	悪化	100.0%	0.0%	好転	0.0%	悪化	100.0%	0.0%	好転	0.0%	悪化	100.0%	0.0%
採算(経常利益)	好転	0.0%	悪化	75.0%	25.0%	好転	-	悪化	-	-	好転	25.0%	悪化	50.0%	25.0%
従業員(含臨時・パート)	増加	0.0%	減少	100.0%	0.0%	増加	-	減少	-	-	増加	0.0%	減少	100.0%	0.0%
業況(自社)	好転	0.0%	悪化	100.0%	0.0%	好転	0.0%	悪化	75.0%	25.0%	好転	25.0%	悪化	75.0%	0.0%

※前年同期比で売上は不変と見る企業が半数で、業況も同様に大きな増減は無い。来期に向けて売上見通しは増加傾向と見るものの、業況は大きな変化は無いと見ている。

今期直面している経営上の課題→①需要の停滞 ②仕入単価の上昇、人件費以外の経費の増加

来期の見通し(H27年10月～12月)

小売業	前年同期比(H26年7月～9月)					前期比(H27年4月～6月)					前年同期(H26年10月～12月)と比べ				
	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化
売上額	増加	20.0%	減少	46.7%	33.3%	増加	13.3%	減少	46.7%	40.0%	増加	6.7%	減少	60.0%	33.3%
資金繰り	好転	0.0%	悪化	80.0%	20.0%	好転	0.0%	悪化	73.3%	26.7%	好転	0.0%	悪化	80.0%	20.0%
採算(経常利益)	好転	0.0%	悪化	66.7%	33.3%	好転	-	悪化	-	-	好転	0.0%	悪化	66.7%	33.3%
従業員(含臨時・パート)	増加	0.0%	減少	93.3%	6.7%	増加	-	減少	-	-	増加	0.0%	減少	93.3%	6.7%
業況(自社)	好転	0.0%	悪化	66.7%	33.3%	好転	0.0%	悪化	66.7%	33.3%	好転	0.0%	悪化	66.7%	33.3%

※売上は前年同期比で増加企業が増えたものの、業況は大きな変化は無い。来期に向けて売上・業況ともに増と見る企業が多く回復基調と見ている。

今期直面している経営上の課題→①需要の停滞 ②購買力の他地域への流出

来期の見通し(H27年10月～12月)

サービス業	前年同期比(H26年7月～9月)					前期比(H27年4月～6月)					前年同期(H26年10月～12月)と比べ				
	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化	増加	減少	不変	悪化	悪化
売上額	増加	6.7%	減少	33.3%	60.0%	増加	0.0%	減少	60.0%	40.0%	増加	0.0%	減少	60.0%	40.0%
資金繰り	好転	6.7%	悪化	53.3%	40.0%	好転	0.0%	悪化	80.0%	20.0%	好転	0.0%	悪化	66.7%	33.3%
採算(経常利益)	好転	6.7%	悪化	40.0%	53.3%	好転	-	悪化	-	-	好転	0.0%	悪化	53.3%	46.7%
従業員(含臨時・パート)	増加	0.0%	減少	86.7%	13.3%	増加	-	減少	-	-	増加	0.0%	減少	93.3%	6.7%
業況(自社)	好転	6.7%	悪化	40.0%	53.3%	好転	0.0%	悪化	73.3%	26.7%	好転	0.0%	悪化	53.3%	46.7%

※売上・採算・業況は前年同期比で大きく減少・悪化企業が増えた。来期に向けても売上・業況ともに回復の基調は見えず全体として厳しい状況と見ている。

今期直面している経営上の課題→①新規参入業者の増加 ②需要の停滞

設備投資→今期実施 1社 来期予定 2社
 車両・運搬具 建物
 サービス設備
 OA機器
 その他

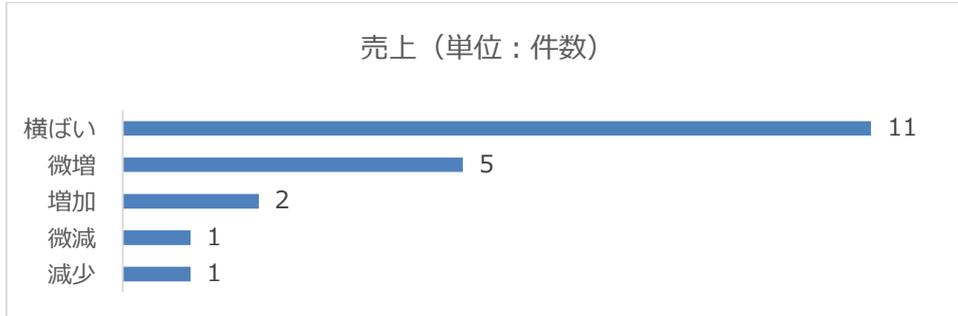
15社

(参照元：新発田市商工会議所 中小企業景況調査)

新発田市商工会議所の中小企業景況調査によると、サービス業を除く業種で若干の回復基調、もしくは変化はないという状況であった。一方、サービス業については回復の基調が見えず、以前厳しい状況が続いていることがわかる。

Ⅱ. 紫雲寺地域の企業における景気動向について

■現在の景気・業況・売上の推移について

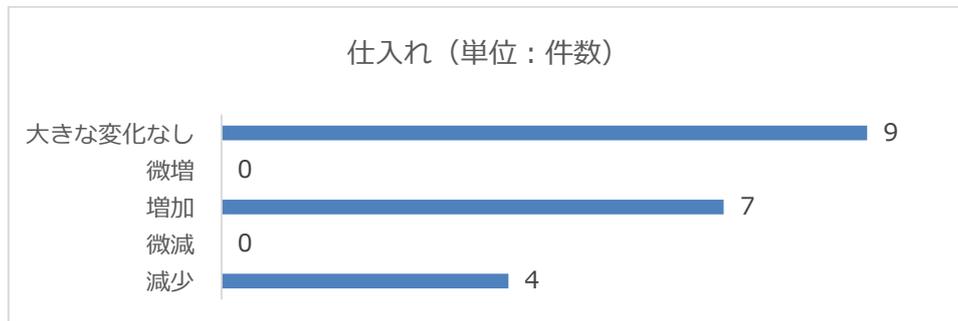


- ・昨年同時期と比べて売上の変化として「ほぼ横ばい」が約半数。
- ・「売上が増加している」と回答した事業者は全体の約4分の1ほど。
- ・「売上が増加している」と回答した事業者に共通点は「個客のニーズに即して自社の商品・サービスの改善を続けている」こと

現在の景気や業況、昨年同時期と比べて売上の状況について聞いたところ、「ほぼ横ばいで推移している」と半数以上の事業者が回答した。一方、「わずかに売上が増えている」と回答した事業者は全体の約4分の1程度であった。

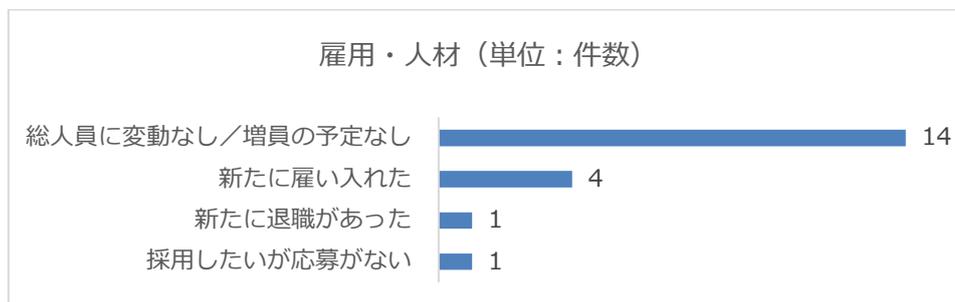
昨年同時期と比べて「売上が増加している」「わずかに売上が増加している」と回答した事業者では、「顧客のニーズを把握し、自社の商品やサービスをニーズに合わせて改善し続けている」という共通点があった。

■仕入れ価格の状況について



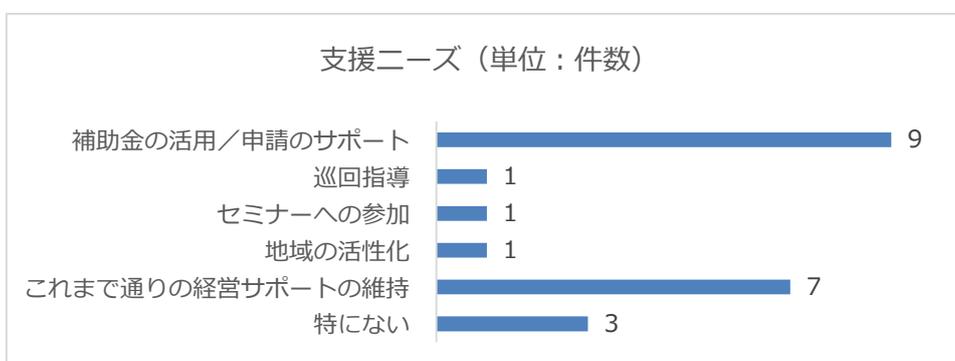
仕入れ価格や費用の状況については総じて「大きな変化がない」という回答が集まったが、一部の業界では「軽油代の価格減少が費用削減、利益率向上の大きな影響となった」と回答した。

■雇用・人材の状況について



多くの事業者で新たに人員を増やす予定がなかった。一方、現在人材を募集している企業の悩みとしては、「応募を出しても人材が集まらない」ということが挙げられた。

■支援ニーズ



【その他の回答】

「経営支援、販売促進の指導」「地域外から訪れた客層を商店街に誘客する仕組み」

商工会からの支援に関するニーズとしては、補助金活用や申請時のサポートに対して最も多くの声が挙げられた。また、現状のサポート体制に満足している事業者が多く、「今後も継続的に密なサポートをお願いしたい」という声が挙げられた。

■現在の経営課題について（一部抜粋）

- ・受注促進（安定的に受注を上げるための方策）
- ・設備投資にあたっての補助金活用
- ・店舗の認知拡大と集客促進
- ・新規事業の事業化、収益化
- ・事業承継、跡継ぎ
- ・作業の効率化
- ・人材採用（応募をかけても募集がない） など